

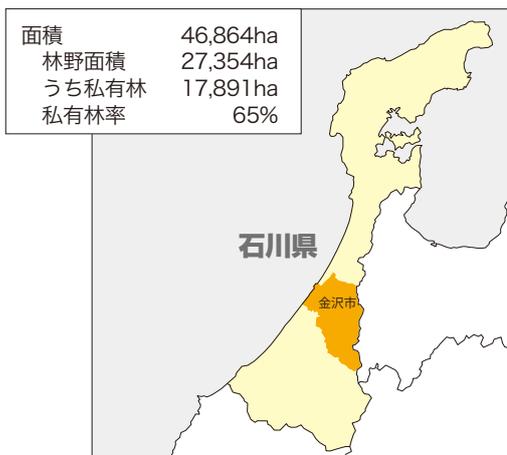
市民総ぐるみでの森林整備の推進

金沢市森づくり条例の具現化を目指して

石川県金沢市



金沢市熊走町の森林



金沢市の森林

金沢市域の6割は森林です。市内を流れる犀川と浅野川は、白山山麓を源に発し、医王山から卯辰山、野田山といった起伏と変化に富んだ丘陵地につながり、市街地の中心を流れ、金沢平野を経て日本海に流れ込んでいます。この二つの流れを育む豊かな森林と、さつまいもや大根等の栽培が盛んな砂丘地園芸地帯を守る海岸林が、市民の生活を支える重要な役割を果たしています。

金沢市森づくり条例

平成15年に金沢市森づくり条例を制定しました。「森林を育てる」、「森林に親しむ」、「木を活かす」、「地域の絆を強める」の4つの基本方針のもと、市、市民や森林所有者等及び、森林関係事業者の責務等を明らかにし、森林を守り育て、後代に継承していくための様々な施策を展開しています。

①森林を育てる

民有林再生支援事業

市域の森林の約8割を占める民有林の整備促進が課題です。市と中山間地の町会等との間で「ふるさとの森づくり協定」を締結し、地域の森づくりの方針を明らかにしたうえで、民有林を整備する費用に対し市独自で8割を上限として補助を行っています。(別表)

特に、集落周辺の竹林は、所有者の高齢化や世代交代のため手入れが行き届かなくなっており、年々拡大しています。さらにイノシシによる農業被害



林業大学校の実習風景

やクマの出没などの野生鳥獣問題も相まって、これらを未然に防ぐため、竹林の整備など集落環境の整備に対し支援しています。

また、森林組合等が実施する既存の国庫補助事業を活用した間伐、植栽、作業道の開設等に国、県の補助に併せ市単独で上乘せ補助を行っています。森林所有者の負担を軽減し、森林整備の意欲を喚起することで民有林の適正な整備を進めています。個人の所有森林の面積規模が小さい(10ha未満が95%以上)ため、一層の施策の効率化が課題であり、市では、市有林と隣接した私有林と連携して作業道を開設するなどの取組も実施しています。

【別表】

「ふるさとの森づくり協定」による市独自の補助

事業内容	補助率
荒廃竹林、老齢広葉樹の伐採及びGPS測量	80%
カシノナガキクイムシ被害木の処理	
伐採木搬出路の開設	
人工林の間伐	65%
人工林の枝打ち	

金沢林業大学校

平成21年4月に金沢林業大学校を通じての市民講座として開校しました。地域の森林施業、林産物生産等を担う人材を育成することを目的に、技術実習を中心として、森林・林業の基礎知識から林産物の生産・販売まで幅広い講座が組まれています。月3回程度、2年を1期として、これまで4期57名の卒業生が持山管理の実践や、地域の森づくりに携わるなどで活躍しています。

②森林に親しむ

木育・森育への取組

小中学校の集会室、図書室等の壁や床などを市産のスギ板材で改装する

「ぬくもりの教室」設置事業を市独自で実施しています。木の持つ温かさを活かした教育環境をつくり、木材利用の効果を広く周知することをねらいとしており、これまで32校で改装工事を行い、児童生徒や保護者、先生方から好評をいただいています。

また、今年2月には、市と東京おもちゃ美術館、オークヴィレッジ(株)の三者が連携し、「木育キャラバン」を開催しました。子供たちに国産の様々な樹種の木で作られた、たくさんの木のおもちゃにふれあう機会を提供したもので、開催場所の金沢21世紀美術館では期間中入場に順番待ちがでるほど多くの家族連れで賑わいました。



市立鞍月小学校の図書室



賑わいをみせる木育キャラバン



市産材を活用した木造住宅

③木を活かす

木の家づくり奨励事業

市産材の住宅建築への活用を進めるため、平成16年に「金沢市木の家づくり奨励金制度」を制定しました。木造住宅を新築・増改築する方を対象に、市産スギ柱を50本以上使用した場合に25万円を限度額として奨励金を交付しています。制度を利用して建てられた住宅は平成28年度末までで1,747棟に上っています。

④地域の絆を深める

企業・市民の森づくり活動

近年、金沢海岸の松林が松くい虫の



市民参加による松林の再生活動

被害により減少し、防風・防砂機能の低下が心配されています。背後の住宅地や農地の保全を進めるため、地域の方などが行う植栽活動にマツ材線虫病抵抗性クロマツの苗木を支給するなどの支援を行い、松林の再生を進めています。地元農家や住民、企業の方などが参加して植栽を行い、9年間で1万6千本を植栽しました。

金沢市では、今後も森づくり条例の理念のもと、木材利用や植栽活動等により市民の理解と協力を得ながら、市民総ぐるみで森林整備を推進していきます。